お元気ですか！
志 村 たかよし です

第８４０号　2017年5月28日

日本共産党中央区議団
中央区　築地 １－１－１
電　話 ３５４６-５５６３
ＦＡＸ ３５４６-９５７０

専門家会議第6回会合　紛糾！

「汚染は残る」座長発言に批判相次ぐ

基準大きく超える有害物質を検出

5月18日、都の専門家会議の第6回会合が、市場内で行われました。

この日は、豊洲新市場予定地の土壌汚染対策案を議論する予定だったのですが、平田座長が「汚染は残る」と認めながら、豊洲への移転を前提として議事を進めようとしたことにたいして、傍聴に詰めかけた市場業者や専門家から怒りの声が噴出し、会議は打ち切られる事態となりました。

専門家会議は、汚染を残したまま、地下空間の床にコンクリートやシートを敷き、地下水くみ上げポンプの機能を強化するという対策を準備していましたが、会議が打ち切られたため、資料配布にとどまっています。

都が「無害化」の未達成を認める

4月の調査でも、環境基準値の百倍のベンゼンやヒ素、検出してはならないシアン化合物など有害物質が検出されたことも報告され

立ち並ぶ「築地いちばン！」の旗には築地市場を絶対に守りたいという強い思いがあふれています。

ました。

「東京都は、豊洲新市場予定地の土壌と地下水汚染について、環境基準以下にすると約束していたではないか」と傍聴者から指摘されると、都中央卸売市場の村松市場長は「無害化するという当時の約束が達成していないことは事実だ。真摯に受け止める」と発言しました。

傍聴者からは、「だれの責任だ」「都の責任じゃないか」との声が上がり、あらためて、築地市場の豊洲移転計画の破たんが浮き彫りになりました。

業者から怒り、批判、憤激の声

平田座長が「専門家会議は、環境基準以下にすることを目指してはいない。汚染は残る」と発言したことにたいし「それでは何を信頼したらよいのか。豊洲新市場整備に6千億円もかけてくれなんて一言も言っていない。モニタリング調査で環境基準以上の汚染が出てしまえば、お客が来なくなる」「豊洲に移って汚染が出たら補償できるのか。これまで土壌汚染対策に860億円もかけたのに、何も効果がなかったではないか」

「移転するかどうかは僕ら市場の人間にとっては一生のことだ。あなた方は2007年の時に、『豊洲は無害化できる』と言ったのに、できなかった」など怒りの声が上がりました。

科学者の良心が問われている

本間慎フェリス女学院大学元学長は「地下空間の換気とか排水といった手段では、きれいにできていないことを認めるべきだ。科学者の良心が問われている」と平田座長を批判しました。

東中労の中澤委員長は「豊洲移転問題で東京都は説明しなければならないことが山ほどあるのに、それをせずにここまで来た。そのことに業者のみんなは危機感を持っていたのではないか。今日はその怒りが爆発した。みんなが安心するためには移転を中止するしかない」と語りました。

9回目以前のモニタリング調査に「疑惑」

基準値を超えた地点で採水をやり直していた

豊洲市場予定地で9回行われたモニタリング調査で、8回目まで基準値を下回っていたのに、それ以降は、百倍のベンゼンなどが検出されたことについて調査の妥当性について疑問がもたれています。

3地点で基準値16倍のベンゼンを検出していた

この点について、18日の専門家会議では、すべての調査地点で基準値を下回ったと発表された7回目までの調査のうち、4回目、5回目、6回目の調査で、当初、「最大で基準値の16倍にあたるベンゼン」が検出されていたことを明らかにしました。

基準値を超えた地点では、都が採水のやり直しをさせ、基準値を下回った「再採水」の結果を公表していたというのです！

しかも、ベンゼンが基準値を超過していた3地点では、井戸のたまり水を抜き取る「パージ」をせずに「再採水」していたことが明らかになりました。

専門家会議は、少なくともこの3地点では「地下水基準に不適合な状態であった可能性がある」としています。

測定データが残っていないとは

基準値の百倍のベンゼンが検出されている5街区では、「再採水」前の測定データは一切残っていなかったとされています。

都から実際に指示した内容等のメモは残っていないということですが、7回目までの調査で、東京都が意図的に「汚染隠し」をやったのではないかという疑惑は残ります。

「メモは残っていない」などと聞くと、今の森友学園や加計学園問題が浮かんできますね。

ご意見、ご要望など、お気軽にご連絡ください（3536－6309）